



寺紋
ひいらぎ おもだか
柊 かこみ沢瀉
(通称 大関沢瀉)

大雄寺報

＝ 第 15 号 ＝

平成 28 年 1 月 1 日発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒 324-0233

栃木県大田原市黒羽田町 4 5 0

TEL 0287-54-0332

FAX 0287-54-0330

編集発行人：住職 倉澤 良裕

印刷所：タキザワ印刷



昭和初期 全景



てらスクール



あじさい茶会

***** 目 次 *****

住 職 法 話	2 ～ 3 頁	あじさい茶会	6 頁
てらスクール	4 頁	しつもん箱(おつとめの仕方)	7 頁
花 と 禅	5 頁	平成28年の主な行事	8 頁

大雄寺の伽藍維持管理に関する取り組み

住職 倉澤 良裕

大雄寺の概要

大雄寺の草創は、今から六〇〇年前、応永十一年（一四〇四）余瀬白旗城内に創建されたが、戦乱の中、大雄寺焼失、その後文安五年（一四四八）黒羽藩主第十代大関忠増により再建、その後、大田原藩大田原資清との争いで第十三代大関増次敗死、大関家の後継第十四代高増（大田原資清の子）により、天正四年（一五七六）に本拠黒羽城を余瀬白旗城から現在の地に移築した。

大雄寺もこの時期に移築し、大関高増の先代藩主大関増次（戒名 久遠院殿超山道宗大居士）を中興開基とし、在室玄隣大和尚を中興開山として大関家累代の菩提寺となった。

第十三代増次の院号から、黒羽山久遠院大雄寺と称することとなる。現在の大雄寺は、文安五年（一四四八）の伽藍で保存され、本堂・庫裡・禅堂・廻廊などの伽藍は、昭和四四年栃木県文化財指定を受け貴重な文化遺産として保存している。

江戸時代は、黒羽藩主大関氏の庇護のもと、寺の運営がなされてきた。歴代住職は、主として大関氏の歴代藩主やその親族の葬儀や法事を実施することを本務としていた。しかし、明治廃藩となり、菩提寺としての役割と庇護を失った大雄寺は、自力で維持管理し

ていく道を強いられることとなった。

明治維新から一四〇年経った現在、大雄寺の伽藍は、大幅な改造を受けず良好に残っている。総茅葺きの伽藍は、菩提寺だった当時の姿を今に伝えるものである。

明治以降、自力で維持管理をおこなってきた大雄寺は、大正九年（一九二〇）に、維持管理に係る団体を設立している。

財団法人大雄寺保護会は、大正九年から昭和三十三年まで三十八年間、寄付金をもとに維持管理に関わる事業を実施してきた組織である。

大正八年（一九一九）頃より、物価の高騰から、維持管理に必要な材料費が上がり、寺の経営が困難になり、伽藍の縮小・宝物の売却・寄付金の募集のいずれかの方策が検討され、最終的に寄付金の募集を行うことに決定した。

大正九年より建物の維持管理を主に務めてきた保護会であったが、昭和三三年その解散が決定された。その解散の事由については、戦後の資金失効をきっかけに大きく傾き、厳しい状況を強いられてきたことがその理由として記されている。

保護会解散後、大雄寺は祠堂金をも

とに寺院維持を行うこととなり、その後、昭和四十一年（一九六六）に曹洞宗の方針により大雄寺護持会を結成している。檀家より年会費を集め、寺院の維持管理を行うこととなる。

しかし、この護持会は、建造物の維持管理を中心に行っていた保護会とは違い、日常の維持管理に重点が置かれるもので、伽藍の維持管理を長期的に推し進めるものではなかったのである。

昭和四二年経蔵・輪蔵が栃木県文化財指定を受け、昭和四四年には本堂・庫裡・禅堂・総門・廻廊・玄関・鐘楼・御霊屋が文化財指定を受けることとなり、伽藍の維持管理は、文化財保存修理事業として積極的に行うことが可能となった。昭和四三年から平成三年までの二十三年間は、文化財保存修理事業として解体修理が実施され、その後の保存修理事業も栃木県・大田原市（黒羽町）の補助事業となった。

ここで大雄寺の伽藍維持管理の経緯を「明治末期から建造物の文化財指定まで」と「文化財指定から現在まで」と大きく分けて具体的な建造物の修繕・修理の経緯を見ることがする。

伽藍維持管理の経緯

① 明治末期から建造物の文化財指定まで

●本堂

明治40年 屋根東及び西側茅葺き替え

明治41年 箱棟附替え
大正7年 箱棟修理「暴風による破損の為」

大正14年 屋根東側茅葺き替え
大正15年 屋根西側茅葺き替え

昭和7年 壁塗り替え
昭和8年 屋根東側茅葺き替え・内陣模様替え

昭和13年 屋根西側トタン葺き替え
昭和17年 屋根西側差し茅

昭和18年 屋根東側差し替え

●御霊屋
明治45年 屋根茅葺き替え

大正7年 屋根葺き替え
大正14年 屋根葺き替え

昭和15年 屋根葺き替え
昭和19年 屋根葺き替え

●玄関
明治40年 屋根葺き替え

明治42年 屋根葺き替え
昭和12年 屋根トタン葺き替え

●庫裡

明治44年 屋根葺き替え
大正15年 屋根葺き替え

昭和4年 屋根葺き替え
昭和5-6年 屋根北側・西側屋根葺き替え

昭和8年 屋根東側屋根葺き替え・台所修理

昭和11年 方丈の間外廊下建具入れ

昭和12年 屋根南側茅葺き替え・箱棟修理

昭和16年 北側・西側トタン葺き替え
昭和19年 屋根北側・東側差し替え

●山門
明治44年 屋根トタン葺き替え

●廻廊

大正8年 屋根葺き替え
昭和6年 屋根葺き替え
昭和13年 屋根葺き替え
昭和19年 修理
昭和23年 屋根葺き替え

② 建造物の文化財指定後から
現在まで

昭和41年 住職交代（三十五代から三十六代）
昭和42年 経蔵・輪蔵栃木県文化財指定

●総門

大正元年 屋根葺き替え
総門は廻廊と一体化しているのので、
回廊葺き替えの際に同時に修理されていたと考えられる。

●禅堂

明治42年 屋根葺き替え
大正4年 屋根一部茅葺き替え
大正7年 屋根一部茅葺き替え
大正14年 屋根葺き替え
昭和6年 屋根北側差し替え
昭和11年 棟修理
昭和16年 屋根葺き替え
昭和18年 北側茅葺き替え

●鐘楼

明治42年 屋根葺き替え
昭和2年 修理
昭和17年 屋根葺き替え
昭和18年 梵鐘供出

●経蔵

大正8年 屋根木羽（杉皮）葺き替え
昭和36年 輪蔵修理・網戸入替

平成7年 開創六〇〇年法要

平成5年 墓地内道路舗装工事
平成6年 総門・廻廊茅屋根保存修理事業
平成3年 住職交代（三十六代から三十七代）
平成2年 永代供養堂新築
平成元年 防災設備事業三か年継続事業
昭和63年 新庫裡新築、庫裡半解体保存修理三か年継続事業
昭和57年 経蔵・輪蔵保存修理二か年継続事業
昭和55年 研修道場 月光館新築
昭和11年 棟修理
昭和16年 屋根葺き替え
昭和18年 北側茅葺き替え



（財）大雄寺保護会（明治45年）

平成8年 禅堂・鐘楼茅屋根保存事業
平成10年 本堂保存修理
平成15年 集古館新築
平成16年 屋外トイレ新築
平成19年～平成21年 建造物調査 文化庁
平成21年 庫裡・総門茅屋根保存修理事業

平成22年 廻廊・鐘楼茅屋根保存修理事業
平成23年 東日本大震災発生。
平成26年 経蔵・御霊屋震災修復事業
平成27年 山道改修・駐車場新設
月光館内トイレ等改修工事
建造物調査再開（文化庁による）



禅堂（修復前・昭和41年）

参考資料

- ① 伽藍萱葺家根葺替修繕見積
明治40年～大正3年
- ② 職工見積綴
大正14年～昭和23年
- ③ 財団法人大雄寺保護会議事録
明治40年から昭和41年
- ④ 文化財指定「本堂・庫裡・禅堂・総門・廻廊・玄関・鐘楼・御霊屋」
保存修理事業報告書
昭和42年～平成23年

お寺で一泊「てらスクール」

感想

八月の下旬、第十回目となる大雄寺てらスクール「夏休み禅道場」を開催いたしました。毎年、夏休みに開催されるこの行事は大雄寺坐禅会により主催され、全国の子供たちを対象に募集しております。ここ数年は募集してから四日ほどで定員になるほど、人気の催しとなりました。平成二十七年度は



県内外小学一年生から六年生までの計二十六名の子供たちが集まり、例年通り、坐禅や食事作法、作務（清掃）など基本的な生活の他、境内の竹を使った、竹筒炊飯や綱渡り（スラックライン）、My灯籠づくりなどのアクティビティも行いました。親元を離れ、お寺で一泊した子供たちは、たくさん叱られ、たくさん笑いながら、厳しさだけでなく驚きと楽しさのつまった日を過ごしました。

有難いことに、今年は檀信徒の皆様より、食材や薪などをご寄進頂きました。改めて感謝申し上げます。

お寺がこれからの世代を担う子供たちの未来に少しでもお役に立っていただけるように、今後も続けて参りたいと思います。



小 食



坐 禅

坐禅は気持ちが落ち着いて気持ちよかったです。お寺では食事中、話しながら食べるのがダメだった。食事は自分の嫌いなものがでたが、おいしく食べることができた。落ちていておいしいということが分かった。（小四 女）

家では正座で食べないので足が痛くなった。でもいつもと違う食事の食べ方はとてもおいしく感じた。雑巾がけで床の線にそってふくことを初めて知った。（小五 男）

一回目の坐禅はすぐ足が痛くなったけど、二回、三回とやると全然痛くなくなり、気持ちが落ち着くようになった。お風呂は温泉に入った。体をたくさん動かしたのですごく気持ちがよかった。（小四 女）

みんなとなかなくなり、友達が出来たりしました。来年も来ることが出来たら、新しい友達を作り、沢山のことを一緒にできたらいいと思います。（小六 男）



綱渡り（スラックライン）



My 灯籠づくり



竹 炊 飯

花と禅

「花と禅」は十三年続いた「大雄寺 ぼたんコンサート」に代わり、平成二十五年から新たに始まった取り組みです。今年で二回目となるこの催しは、先人が六〇〇年間変わらず残してくださった伽藍をすべて使用し、特別な体験を無料で行うという頂こうとするものです。禅堂では初めての方向けの「坐禅体験」、月光館ではヨガ講師を招いた「ヨガ体験」、本堂では大雄寺の歴史を聞く「境内拝観」とバイオリンの演奏を行いました。境内ではボタンやハンカチの花が満開に咲き、昨年にも増して多くの参拝者が訪れました。お寺という非日常の空間で、自身の目、耳、鼻、呼吸、体を通し、禅や自然、文化や歴史に触れることのできる貴重な一日となりました。



バイオリン演奏会



坐禅体験



ヨガ体験



境内拝観



大雄寺あじさい茶会

黒羽城址公園に見事なあじさいが花開く六月二十八日、第三回目となるあじさい茶会が開催されました。大雄寺には四畳半の茶室があり、東京から社中の皆様が参拝に來られた皆様にお茶をたててくださいました。今年は茶室席の他に、立札席（椅子席）を設け、去年とは異なった趣向となりました。抹茶のいただき方も丁寧に教えて下さり、初めての方だけでなく、お子様や海外の方にもお茶をお楽しみ頂きました。

茶道は禅の文化と歴史的に深い関係にあります。茶室の空間は、坐禅堂にとてもよく似た雰囲気を感じ出しており、余計なものがなく、透き通った静寂に包まれた空間です。この空間は人間のすべての感覚器官を「いま」と「茶」だけに向くように、作られた特別な空間のようであります。また来年もこのような機会を設けて参りたいと思います。



茶室

大雄寺のおびんずる様



おびんずる様

●おびんずる様の体内より大雄寺十三世廩門貫徹大和尚の払子が発見される。

払子とは法要に導師が使用する仏具である。この払子は廩門貫徹大和尚【元禄三年（一六九三）〜元禄一六年（一七〇三）】が使用していた払子とされる。

払子の毛の部分は髪の毛（信者の毛であろうか）で作られており、おびんずる様の体内に納められていた。

●おびんずる様の体内より書状が発見される。

書状には「明和四年八月再興 大雄寺二十四世悦外代・施主賢隆」と記されており、明和四年（一七六七）八月、大雄寺二十四世悦外元立大和尚【明和三年（一七六六）〜寛政三年（一七九一）】代に賢隆によりおびんずる様を新調したことがわかる。

●おびんずる様の台座に記された文字

おびんずる様の鎮座する台座には「享和三年二月 大仏師職高田運応八十八歳 同運平三十六歳」と記されており、享和三年（一八〇三）二月、大雄寺二十五世格外元機大和尚【寛政三年（一七九一）〜文化一二年（一八一五）】代に大仏師職高田運応八十八歳 同運平三十六歳により、おびんずる様が修復されたことがわかる。

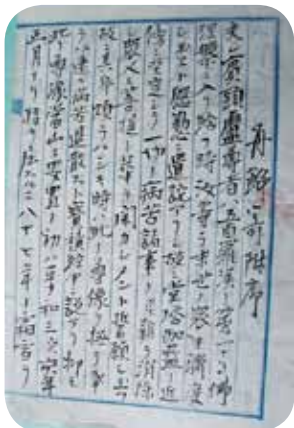
る。尚、二十五世格外元機大和尚住持中に残されたものとして、大雄寺には「本堂内板給十六羅漢図 文化六年（一八〇九）小泉斐作」や「黒羽家中屋舗絵図享和元年（一八〇一）」などがある。

●おびんずる様の台座に記された文字

おびんずる様の鎮座する台座には「安政六年六月再建立」と記される。安政六年（一八五九）におびんずる様は修復され、再建立されたことがわかる。

●平成でのおびんずる様の修復

平成一六年、現住職慧巖良裕大和尚代になり、施主大嶋守氏によるおびんずる様の修復が行われている。古くから多くの方の信仰を集め、衆生を見守り続けているおびんずる様を今日もお参りに人が訪れている。現在のおびんずる様の台座には「為 弘基院貫徹守成清居士 補修の施主 大嶋守 平成十六年十二月吉日」と記されている。



書付

●●●●● 仏壇とおつとめの仕方 ●●●●●

■仏壇とは？

仏壇は仏様をまつところ です。仏壇の中にご本尊が安置されているのはそのためです。同時に仏壇にはその家のご先祖もまつられています。つまり、仏壇には、仏様を通して先祖や故人を思い感謝する、という二重の意味があるのです。私たち日本人は、仏壇にお参りすることによって、現在ある自分は先祖のお蔭であることに感謝してまいりました。実際、私達は、多くの生命と業を引き継いだ結果で存在しており、沢山の願いや想いを託されており。その意味で私たちはまさに生かされている、といっても過言ではありません。仏壇は自分を省み、感謝の念を形であらわすことのできる大切な場であると共に、これからも自分の根である家門を守り、正しく生きていくための誓いの場であるといえます。

■まつり方とは？

必ず仏壇上段の中央にはご本尊が安置されております。我が宗門（曹洞宗）では、お釈迦様を本尊としてまつります。本尊は木像、金像、絵像でもかまいません。同時に本尊両脇にはその家のご先祖様のお位牌もおまつりします。向かって左側が新しいお位牌となります。また中段には茶、菓、飯などをお供えし、下段には左から華、香炉、灯りの三具足を供えます。

■お手入れ方法は？

どんなに高価な仏壇が鎮座していても日常のお手入れや供養がなければ宝のもちぐされです。古より、仏壇をおろそかにすることは自分をおろそかにすることにつながる、というように、自分のルーツのある仏壇を清浄に保つために、埃をはらい、香炉の灰を綺麗にしておきます。忙しさに自らを忘れてしまわぬよう、週に一度は仏壇を綺麗にする時間を持ちたいものです。

■供養おつとめの仕方とは？

- ① 仏壇の前に座布団を敷き、座して、灯明を点じ、お香をたいて合掌一礼します。
- ② 気持ちを整えてから経本をもち、三度リンを鳴らした後、お経（般若心経など）をお唱えします。
- ③ お経が終わったら、回向文（本尊回向、先祖供養回向、普回向のいずれか）をお唱えし、再度合掌一礼いたします。



回向例：先祖供養回向

あお こいねがわ さんぼう ふ しょうかん た じょうらい
仰ぎ 冀くは三宝、俯して照鑑を垂れたまえ。上來、（お経の名前）を諷誦す、集むる所の功德は、（戒
れい い え こう ほう ち しょうこん
名）靈位に回向し、報地を莊嚴せんことを。

じーほーさんしーいーふー しーせんぶーさーもーごーさー もーごーほーじゃーほーろーみー
十方三世一切仏 諸尊菩薩摩訶薩 摩訶般若波羅蜜

※経本をお持ちでない方やその他詳細を知りたい方は、いつでもお寺にご連絡ください。

大雄寺プチ修行

お寺の生活を半日体験できます。
希望される方は「朝の修行」または「夕刻の修行」を選び、事前にお問い合わせください。

<朝の修行>

上山

6:30	坐禅の説明
6:45	暁天（坐禅）
7:15	朝課（読経）
7:35	作務（清掃）
8:05	拝観・回向之証授与

下山

<夕刻の修行>

上山

14:45	坐禅の説明
15:00	作務（清掃）
15:30	夜坐（坐禅）
16:00	晚課（読経）
16:20	拝観・回向之証授与
16:55	大梵鐘八声（鐘つき）

下山

写経会

毎月第1火曜日午後1時～

読経会

毎月第1火曜日午前9時～

ご詠歌教室

毎月第2・第4水曜日午後1時30分～

平成28年の主な行事

1月1日より	初詣
1月31日	節分会
3月6日	白旗不動尊大祭
3月17日～23日	春彼岸会
5月1日	牡丹開花
5月8日	花祭り
6月8日	大般若法会
8月13日～16日	盂蘭盆会
9月19日～25日	秋彼岸会
10月1日	大施食会
12月18日	観音祈願納経法会
12月31日	除夜法会

日曜坐禅会

毎月第2・第4日曜日午前7時30分～

※初心者の方は事前にプチ修行体験が必要になります。

毎月2度、忙しい日常から抜け、禅堂でただ坐禅を組んでみませんか？

7:30	止静（坐禅開始）
8:15	作務（清掃）
8:30	下山または茶話会

問合せ先

黒羽山 大雄寺

☎ 0287-54-0332

大雄寺ホームページ 詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL <http://www.daiouji.or.jp/>
E-mail ryoyu@daiouji.or.jp